

第107回(昭和59年4月)講演大会講演募集案内 会 告

申込(原稿同時提出)締切り 昭和59年1月9日(月)

注 意

講演概要の図・表・写真の表題ならびにその中の説明は英文となつておりますのでご注意ください。英文以外は訂正のため返送いたします。

本会は第107回講演大会を昭和59年4月1日(日)、2日(月)、3日(火)の3日間千葉工業大学において開催することになりました。下記により講演募集をいたしますので、奮つてご応募下さるようご案内いたします。

講演希望者は昭和59年1月9日(月)までに申込用紙と講演概要原稿を提出して下さい。

講演概要は英文化(所定のタイプ用紙1枚)し、Trans. ISIJ に投稿できるようになつておりますので、多数ご投稿下さるよう併せてご案内申し上げます。

講演ならびに申込要領

1. 講演内容 鉄鋼の学術・技術に直接関連あるオリジナルな発表
2. 講演時間 1講演につき講演15分
3. 講演前刷原稿
 - 1) 原稿は目的、成果、結論が理解しやすいよう簡潔にお書き下さい。
 - 2) 設備技術に関する原稿には計画にあつての基本方針、特色、成果等が必ず盛り込まれているものとする。
 - 3) 商品名・略号等は表題ならびに本文いずれにおいても原則としてご遠慮願います。
 - 4) 謝辞は省略して下さい。
 - 5) 原稿枚数は原則として所定のオフセット用原稿用紙(1600字詰)1枚とします。しかし内容的に止むを得ない場合は2枚まで認めます。(いずれも表、図、写真を含む)ただし編集委員会で査読のうえ1枚にまとめなおし願うことがありますのであらかじめご了承下さい。
 - 6) 原稿は所定の用紙にタイプ印書あるいは黒インキまたは墨を用い手書きとして下さい。
 - 7) 単位は「鉄と鋼」投稿規程に準じます。
 - 8) 図、表、写真中の表題ならびにその中の説明は、英文といたします。
 - 9) 原稿用紙は有償頒布いたしております。
4. 講演申込資格
講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は、所定の入会手続きを済ませたうえ、講演申し込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続きをされるよう希望いたします。
5. 講演申込制限
 - 1) 講演申し込みは1人3件以内といたします。
 - 2) 連報講演は原則として一講演会あたり3報までとします。ただし連報形式として申込まれてもプログラム編成の都合により連続して講演できない場合がありますのでご了承下さい。
6. 申込方法 12月号会告末に添付されている講演申込用紙ならびに受領通知ハガキに必要事項を記入の上、講演前刷原稿とともに申し込み下さい。
7. 申込用紙の記載について
 - 1) 申込用紙は(A)、(B)、(C)とも太字欄をのぞき楷書でご記入下さい。(申込用紙は、12月号会告末に綴込まれております)
 - 2) プログラム編成上の参考といたしますので、「講演分類欄」に講演内容が、下記講演分類のいずれに該当するか、番号でご記入下さい。

- 3) 講演者には氏名の前に○印を, また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。
- 4) 講演要旨は, 情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおま
とめ下さい。

8. 申込みの受理

下記の申し込みは理由のいかんにかかわらず, 受付はいたしませんので十分ご注意下さい。

- 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込
- 2) 必要事項が記入されていない申込
- 3) 単なる書簡または葉書による申込ならびに電報,
電話による申込
- 4) 鉛筆書き原稿, 文字が読みづらいもの, 印刷効果
上不適当と認められるもの
- 5) 図・表・写真が英文でないもの

9. 講演原稿取り下げ

プログラム決定後の講演原稿の取り下げはお断り
いたします

**10. 申込締切日 昭和 59 年 1 月 9 日 (月) 17 時着
信まで**

申込用紙, 講演前刷原稿を同時提出のこと。

11. 申込先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4

経団連会館 3 階 (社) 日本鉄鋼協会編集課
(電) 03-279-6021 (代)

~~~~~

**原稿用紙, 合本ファイル有償頒布に  
ついて**

- 1. 原稿用紙 (鉄と鋼用本文用紙 50 枚・図面用紙  
16 枚綴)  
1 冊 500 円 (〒350 円), 2, 3 冊 (〒700 円)
- 2. 図面用紙 (鉄と鋼用 50 枚綴)  
1 冊 500 円 (〒350 円), 2, 3 冊 (〒700 円)
- 3. 講演前刷用原稿用紙  
鉄と鋼用 (1 枚 10 円),  
Transactions ISIJ 用 (1 枚 10 円)

郵送頒布の場合は下記のとりの枚数を限定させてい  
ただきます。なお 50 枚以上の場合は係までお問合せ下  
さい。

|                |      |      |      |      |       |                   |
|----------------|------|------|------|------|-------|-------------------|
|                | 10枚  | 20枚  | 30枚  | 40枚  | 50枚   | 備 考               |
| 鉄 と 鋼 用        | 340円 | 550円 | 650円 | 750円 | 1200円 | } 料金は<br>送料込<br>み |
| Transactions 用 | 340円 | 440円 | 650円 | 750円 | 850円  |                   |

- 4. 「鉄と鋼」用合本ファイル  
1 冊 250 円 (送料別)
- 5. 申込方法 ①原稿用紙の種類, ②枚数, ③送付先  
明記のうえ, ④料金 (切手でも可) を添えお申し  
込み下さい。
- 6. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4  
経団連会館 3 階 日本鉄鋼協会庶務課

**講演分類**

| 製 鉄   |               |          |         | 製 鋼  |        |         |         |     |
|-------|---------------|----------|---------|------|--------|---------|---------|-----|
| 1     | 2             | 3        | 4       | 5    | 6      | 7       | 8       |     |
| 原料・燃料 | 製錬            | 耐火物・スラグ  | その他     | 精錬   | 鑄造・凝固  | 耐火物・スラグ | その他     |     |
| 分析    | 加 工 ・ シ ス テ ム |          |         |      |        |         |         |     |
| 9     | 10            | 11       | 12      | 13   | 14     | 15      | 16      | 17  |
| 分析    | 塑性加工          | 表面処理・防食  | 鑄造・粉末冶金 | 溶接   | 熱処理設備  | 計測・制御   | 環境管理・情報 | その他 |
| 材     |               |          |         | 料    |        |         |         |     |
| 18    | 19            | 20       | 21      | 22   | 23     | 24      |         |     |
| 基礎物性  | 熱処理・組織        | 強度・靱性・破壊 | 塑性・加工性  | 高温特性 | 腐食・耐食性 | その他     |         |     |

~~~~~

昭和 59 年秋季 (第 108 回) 講演大会討論会

討論講演募集

昭和 59 年秋季 (第 108 回) 講演大会で開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので奮つてご応募下さるようご案内いたします。

1. 討論会テーマ

I 製鉄プロセス研究のためのモデル実験とその考え方 座長 下村 泰人

製鉄の各プロセスにおいて、制御性の一層の向上や、限界操業追求のための研究開発が活撥に行われている。このためには、プロセスの定量的把握、実験の結果を数学的シミュレーションモデルに組込んで総合化することなどが必要である。高炉における装入分布、炉内における物質・熱の移動、レースウェイ現象、炉床部の挙動、またコークス乾留さらには焼結反応など製鉄分野における複雑な現象をいかに分割して単純化して、いわゆるモデル実験を行うかについての事例検討、および討論を行いたい。

II 融体精錬の基礎と応用 座長 森田善一郎 副座長 丸川 雄浄

近年溶銑予備処理、転炉の複合吹錬、取鍋精錬などの精錬技術の著しい進歩により製鋼プロセスは急速に変貌を遂げつつあるが、さらに一層の飛躍を期するためには、製鋼プロセスに關与する溶銑、溶鋼、溶融スラグ等融体の性状や反応に関する基礎的な情報を正しく把握し、かつ、それらを実際の精錬プロセスにおける現象解析や操業へ応用しうることが必要である。このような見地から、今回は融体精錬に関する熱力学、速度論、プロセス工学などの基礎的諸問題ならびに実操業を含めた応用面における諸問題につき討論を行う。各方面からの発表と活発な討論を期待する。

III 圧延鋼材のオンライン熱処理 座長 國岡 計夫

省資源、省エネルギーおよび新製品開発の観点から、近年圧延鋼材のオンライン熱処理技術の開発には目覚ましいものがあり、特に厚鋼板の圧延直後の直接焼入れ、加速冷却の開発、実用化は顕著である。そこで今回は厚鋼板はもちろんのこと、鋼管、薄板、形鋼、条鋼などの圧延鋼材のオンライン熱処理について、熱処理技術を中心に歪み対策など周辺技術についての発表も期待します。広く各方面からの発表と活発な討論をお願いします。

IV 高温構造材の余寿命推定法 座長 雜賀 喜規

近年、高温機械、構造物に対して高性能化、長寿命化、経済性の改善などが強く要請されている。一方、火力発電、化学プラントなどの既存機器においては 10 年を超える長時間使用のものが増加し、しかも使用環境、負荷の変動など一段と厳しくなっている。新設、既設を問わず高温機器の安全性、信頼性を維持するため、余寿命推定技術の重要性が増している。

今回は、構造材料の余寿命推定事例のほか、長時間使用にともなう材質変化、損傷機構、計測技術、またそれらの将来展望についても各方面からの発表と討論をお願いしたい。

2. 申込締切日 昭和 59 年 2 月 27 日 (月)

3. 申込方法 討論会参加ご希望の方は討論会申込書を下記までご請求下さい。申込用紙には必要事項ならびに申込書裏面に 400 字程度の講演のアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は、前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので、あらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷 昭和 59 年 5 月 18 日 (金)

原稿締切日 討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙 4 枚以内 (表、図、写真を含む) にタイプ印書あるいは黒インクまたは墨をもちいて楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。

6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第 70 年第 9 号 (昭和 59 年 7 月号) にて発表いたします。

7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第 70 年第 10 号 (8 月号) に講演内容を掲載いたします。

8. 討論質問の公募締切日 昭和 59 年 9 月末日

前記 10 号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。

9. 問合せ・申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021

第 96・97 回 西山記念技術講座

——快削鋼の製造技術の発展と品質の向上——

主催 日本鉄鋼協会

第 96・97 回西山記念技術講座を下記により開催いたしますので多数ご来聴下さいますようご案内申し上げます。

I 期 日 第 96 回 昭和 59 年 2 月 15 日(水), 16 日(木)

東京 農協ホール (千代田区大手町 1-8-3 TEL 03-279-0311)

第 97 回 昭和 59 年 2 月 28 日(火), 29 日(水)

名古屋 名古屋通信ビル 2 階ホール (名古屋市中区千代田 2-15-18 TEL 052-263-5221)

II 演題ならびに講演者

第 1 日

9:30~10:30	快削鋼の基礎理論と展望	(株)神戸製鋼所	荒木 透
10:40~12:10	快削鋼の被削性の評価と材質の影響	(株)神戸製鋼所鉄鋼生産本部	古澤 貞良
13:00~14:30	切削加工と工具技術の動向	東京農工大学工学部	竹山 秀彦
14:40~16:10	快削鋼の利用と効果	トヨタ自動車(株)第一生産技術部	桑原 昌博

第 2 日

10:00~11:30	硫黄快削鋼の製造と製品特性	新日本製鉄(株)第二技術研究所	赤沢 正久
12:30~14:00	鉛快削鋼の製造と製品特性	大同特殊鋼(株)中央研究所	木村 篤良
14:10~15:40	カルシウム快削鋼の製造と製品特性	住友金属工業(株)第三製品技術部	大野 鉄
15:50~16:50	特殊快削鋼の製造と製品特性	大同特殊鋼(株)中央研究所	中村 貞行

III 講演内容

1) 快削鋼の基礎理論と展望 荒木 透

快削鋼の由来と工学的意義についてまず概説する。つぎに、大別して、硫黄快削鋼、鉛快削鋼、脱酸調整快削鋼それぞれの冶金学的特質、機械的特性について述べ、その品質を左右する製造技術の背景となる基礎的理論に関連して解説する。さらに、被削性向上の機構について力学模型ならびに金属学的微視組織と塑性挙動との関連について考察する。

さらに、快削鋼の今後の発達について概観展望する。

2) 快削鋼の被削性の評価と材質の影響 古澤 貞良

切削加工時の削りやすさの程度を表現するのに被削性の面からは、「被削性」という一つの材料特性値(?)が一般に用いられる。しかしこの「被削性」の持つ意味は非常に漠然としており、他の材料特性値、たとえば焼入性を示す Jominy 値のような明確な評価基準を持たない。これは被加工材の削りやすさが一つの基準では表現できない複雑な因子を含んでいるからである。すなわち「削りやすさ」の評価は、それぞれの切削加工様式(旋削、木づ切り他)や切削加工者の期待(仕上げ面粗さ、切りくず処理性他)などによつて異なる。本稿では、被削性の評価基準をどのように決定すればよいかを切削様式ごとに検討する。また被削性に及ぼす化学成分、介在物、顕微鏡組織および冷門加工等の影響についても言及する。

3) 切削加工と工具技術の動向 竹山 秀彦

各種工具材料とその適応性について述べ、ついで切削加工技術においては、自動化生産システムへの対応として、信頼性、加工精度、切りくず処理等の考え方と実際、先端技術への対応としては、超精密切削加工、難削材の切削、超高速切削等について述べる。最後に本分野における将来の課題とその対策について述べる。

4) 快削鋼の利用と効果 桑原 昌博

自動車のパワーユニット、パワートレインなどの構成部品に炭素鋼、合金鋼や特殊用途鋼を使用しており、部品ごとに工作機械を加工工程順に並べ、自動化された生産ラインで加工されることが多い。生産ラインの効率は、鋼材の被削性に大きく影響される。したがって、快削鋼が利用され効果を上げている。

そこで、ここでは、自動車部品に使われている快削鋼の種類と特徴及び生産ラインでの効果について述べる。また他の鉄系材料及び加工技術の進歩が快削鋼に与える影響を述べ今後を展望する。

5) 硫黄快削鋼の製造と製品特性 赤沢 正久

安価で効果的な快削性体与元素である硫黄を添加した快削鋼は、快削鋼として最も古くから製造され普及している鋼種である。硫黄は製鋼・圧延過程で種々のトラブルを生じやすく、また、使用性能に対しても多くの制約を加えることになる。硫黄快削鋼の製造条件とそれが被削性や使用性能に及ぼす影響、硫黄によつて被削性が改善される機構被削性評価法とその問題点などに関する最近の研究成果について概説する。

6) 鉛快削鋼の製造と製品特性 木村 篤良

鉛快削鋼が米国で開発されてすでに半世紀近くが経過し、その間我が国においては脱ガス・連続铸造等新しい製鋼技術の導入により高品質・高信頼性の機械構造用鉛快削鋼が製造され、自動車、産業機械、精密機械、家庭電器、事務機器をはじめ、極めて広い分野に適用され、我が国産業の高度成長に大きく貢献して来た。鉛快削鋼は微小鉛粒が

鋼中に均一に分散されているため広範な工具による切削において優れた被削性を示し、切りくずの破碎性が著しく良好でバリが少なく、機械的性質も通常鋼とほとんど変わらない。したがって、今後ますます普及するであろう機械加工工場の自動化・無人化に対応し得る鋼としてその活用が一段と期待されている。

本講演では、鉛快削鋼の製造に関する変遷、新しい製造技術と実績および今後の製造技術動向、また、各材料特性におよぼす Pb の影響についてその性質を述べ、鉛快削鋼の将来像についても述べる。

7) カルシウム快削鋼の製造と製品特性 大野 鉄

低融点介在物である、Ca を含む酸化物の、組成と脱酸条件との関係、これらの酸化物の組成が被削性に及ぼす影響、Ca 酸化物によつて被削性が改善される機構、機械的性質に及ぼす Ca の影響、実用鋼としての Ca 快削鋼の特徴と適用、について、これまでに明らかにされている成果を紹介する。

あわせて、Ca 酸化物以外の低融点介在物による、快削鋼の開発についても述べる。

8) 特殊快削鋼の製造と製品特性 中村 貞行

合硫黄軟鋼系から出発した快削鋼は、中・高炭素鋼、低合金鋼へと拡大されてきた。一方、快削元素としても鉛、Ca、Te、Ce、Bi 等がつぎつぎと適用され、これらの元素が単独または複合して添加されるようになった。各快削元素は被削性、機械的強度、耐食性など鋼の諸性質に対しておのおの異なる影響を与える。このため、用途上要求される性能に応じ、快削元素の種類および量の検討が行われ、さまざまな快削鋼が開発されてきた。また、快削元素の与える悪影響を他の元素の添加や不純物元素の抑制により改善する技術も発達してきた。

一般に快削元素は鋼の熱間加工性を劣化させるものが多く、熱間加工技術および熱間加工性改善技術の発達によつて各種特殊快削鋼の実用化が可能となつてきた。

本講演では、Te、Ce、Bi、Zr 等特殊元素を含有する快削鋼、ステンレス鋼、高 Mn 非磁性鋼、工具鋼、耐熱鋼、電磁材料、軸受鋼等特殊用途快削鋼の特性を紹介すると同時に、特殊快削元素の添加方法、快削鋼の二次精練、造塊技術、圧延技術に関して述べる。

IV 聴講無料 (事前の申し込み不要)

V テキスト代 4,500 円

VI 問合せ先 〒100 千代田区大手町 1-9-4 日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021

「鉄と鋼」特集号原稿募集案内

テーマ：再結晶・粒成長

原稿締切日 昭和 59 年 3 月 9 日 (金)

これまでの性質関係の多くの特集号が「材料」を対象としていたのに対し、今回は「現象」を対象とした表題のようなテーマの「特集号」を企画いたしました。

本特集号には下記のような内容を含めたいと考えております。また対象も電磁鋼や加工用鋼板を始め、条鋼、厚板、あるいは非鉄材料まで含めます。再結晶・粒成長を対象とした論文の投稿を歓迎いたします。

- ・加工組織と再結晶核生成、その場再結晶
- ・再結晶粒界の構造または性格
- ・粒界移動
- ・再結晶後の粒成長、二次再結晶
- ・結晶粒微細化と粗大化、混粒組織
- ・熱間加工と(動的及び静的)再結晶
- ・二相組織、混合組織の再結晶
- ・再結晶・粒成長挙動に及ぼす固溶原子と析出物の状態と役割

記

1. 原稿締切日 昭和 59 年 3 月 9 日 (金)
2. 発行 鉄と鋼 第 70 年第 15 号 (昭和 59 年 11 月号)
3. 原稿枚数 1) 論文は刷り上り 8 ページ以内 (表、図、写真を含めて本会所定の原稿用紙 40 枚以内)
2) 技術報告は刷り上り 7 ページ以内 (〃 35 枚以内)

(注) ・原稿は本会投稿規程に基づいて執筆下さい。
・投稿された論文は編集委員会において審査されます。

4. 問い合わせ・原稿送付先

〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 F (社)日本鉄鋼協会編集課 (電)03-279-6021 (代)

(注) 投稿時、原稿表紙に「再結晶・粒成長」と朱書して下さい。

東海支部

特別講演会のお知らせ

日時：昭和59年2月7日(火) 13:00～
 場所：名古屋市千種区不老町
 名古屋大学工学部5号館2階第521番講義室
 題目：「高温腐食環境下の強度特性」
 講師：東京都立大学工学部教授 宮川大海
 問合せ：日本鉄鋼協会東海支部
 Tel. (052) 781-5111 内線 3372

九州支部

第53回学術講演・討論会

テーマ：「塊成鉄の性状と高炉内反応」

第26回湯川正夫記念講演会

日時：昭和59年2月17日(金)
 場所：北九州市

10:00 塊成鉄の還元速度論 九大・工・小野陽一
 10:40 焼結鉄の鉄物組織と低温還元粉化性
 神鋼・浅田研・井上勝彦
 11:20 焼結鉄の鉄物組織と被還元性
 鋼管・技研・宮下恒雄，○坂本 登
 福与 寛，岩田嘉人

13:00 湯川正夫記念講演会
 戦後の製鉄理論史における2～3のトピックス
 東大名譽教授，住金・中研 館 充

14:40 高炉内反応シミュレータ (BIS 炉)
 による焼結鉄の反応挙動
 新日鉄・第三技研・○斧 勝也，岡本 晃
 内藤誠章，林 洋一

15:20 垂直ゾンデによる高炉内反応の調査
 新日鉄・八幡製鉄部・○稲垣憲利，岩尾範人
 浅井謙一，川岡浩二

16:00 光ファイバーを利用したゾンデによる
 高炉内状況の検討
 新日鉄・大分製鉄部・○和栗真次郎，金森 健
 望月志郎，樋口宗之，宮辺 裕，平田達朗

「84分散形制御システムの実習付講習会」

開催のお知らせ

主催：(社)計測自動制御学会 協賛：日本鉄鋼協会，
 他
 期日：昭和59年1月30日(月)～2月3日(金)
 第1日：(1月30日) 技術講演会 於：日本化学会講堂
 第2日，第3日，第4日，第5日 実習
 参加費：(全期間)会員：30,000円，学生会員 15,000円
 会員外：50,000円(主催，協賛学会とも)
 (第1日のみ) 会員 10,000円，学生会員 5,000円
 会員外 20,000円
 定員：100名

第29回材料強度と破壊総合シンポジウム

共催 日本鉄鋼協会，ほか
 日時 昭和59年3月29日(木) 10:00～17:30
 場所 学士会館(本館)東京都千代田区神田錦町 3-28

- (1) 弾塑性破壊力学に関する研究展望
東工大 坂田 勝
- (2) 遷移温度領域での弾塑性破壊，靱性試験法
横浜国大工 安藤 柱，外
- (3) 材料破損寿命信頼性の多段確率過程論的
アプローチ 工学院大 横堀 武夫，外
- (4) 疲労き裂進展挙動に対する金属組織，
特にフェライト結晶粒大きさの影響
工学院大 横堀 武夫
- (5) 高温・高圧・水中におけるき裂材の
SSRT の現状 日本原子研 中島 甫
- (6) 環境強度の電気化学的側面
東大工 辻川 茂男
- (7) 応力腐蝕割れ試験法とその標準化に
関する諸問題 金材技研 青木 孝夫
- (8) 高温強度研究の動向 東大工 朝田 泰英
- (9) 産業設備における破壊事故例 小倉 信和

参加無料

シンポジウム論文集(約150頁) 1部 5,000円
 (送料別 1部 500円)

問合せ・論文集申し込み先
 〒980 仙台市上杉 1-17-18 銅谷ビル 802
 安全強度研究協会内 強度シンポジウム委員会
 電話 0222-65-7843
 申し込み締切 昭和59年3月8日(水)

第21回理工学における同位元素研究発表会論文募集

会期 昭和59年7月2日(月)～7月4日(水)
 会場 国立教育会館(東京都千代田区霞が関 3-2-3
 文部省となり)

論文発表

- (1) 内容 同位元素および放射線の利用の技術に重
点をおいた論文と，同位元素，放射線の利用の基礎
となる研究論文
- (2) 発表申込区分 プログラム編成の便宜上，11の
申込区分を設けます。
- (3) 発表時間 1件の発表 15分以内の予定
発表者の資格 発表申込者が所属する主催学協会の年会
(大会)等の規定または慣例に従う。

問合せ・発表申込み先

〒113 東京都文京区本駒込 2-28-45
 日本アイソトープ協会内

理工学における同位元素研究発表会運営委員会
 Tel. (03) 946-7111(代) 内線 261

発表申込締切：昭和59年2月29日(水) 必着
 講演要旨原稿締切 昭和59年4月14日(土) 必着
 共同主催者 日本アイソトープ協会，日本鉄鋼協会，ほか

第22回原子力総合シンポジウム開催のお知らせ

共催：日本原子力学会，本会外
 日時：1984年2月6日(火)，7日(水) 9:15～17:45
 場所：国立教育会館6階
 (千代田区霞ヶ関 3-2-3 電話 03-580-1251)

- 主調テーマ 原子力における国際協力
1. 軽水炉に関する国際協力 4 講演
 2. 核燃料サイクルにおける国際協力 3 講演，パネル討論
 3. 新型炉に関する国際協力 4 講演
 4. 発展途上国における国際協力 3 講演
 5. 核融合研究開発における国際協力 5 講演
- 一般講演
1. 原子力機器の地震時機能維持 映画 1
 2. ポジトロン医学の進歩 2 講演
 3. 中性子ラジオグラフィの現状と展望 1 講演
 4. コンピュータシミュレーション技術 4 講演
 5. 強力粒子源による研究の現状 5 講演
 6. 原子炉配管系における漏洩先行型破損 2 講演
 7. エネルギーと合意形成 5 講演

特別講演 2 講演

参加費 一般 1,500円 学生 1,000円

予稿集 実費予価 1,500円

問合せ先 運営委員会事務局

(〒105 港区新橋 1-1-13 (東新ビル6階)
 日本原子力学会気付 (03) 508-1261～3)

7th International Conference on Nondestructive Evaluation in the Nuclear Industry

1. 主催 COFREND (French Society for Nondestructive Testing)
 American Society for Metals
2. 期日 1985年1月29日～2月1日
3. 場所 Grenoble, France
4. 会議の目的
 to promote development of NDE methods to solve problems within the nuclear industry
5. 論文のテーマ
 all examination techniques and components of the reactor cooling system (piping, steam generators, vessels, etc.) as well as fuel
6. アブストラクト
 - 1) 語数：400～600 語
 - 2) 使用言語：英語，仏語のいずれでも可
 - 3) 締切：1984年3月1日
7. アブストラクトの送付先，および詳細の問い合わせ先は下記の通りです。

Mr. Jean Pierre Launay Dr. V. S. Goel
 COFREND 8281 West Portland Ave.
 32, Boulevard de la Chapelle Littleton
 75880 Paris Cedex 18 Colorado 80123
 FRANCE U. S. A

IFAC Symposium on Automation for Mineral Resource Development

1. 主催 The International Federation of Automatic Control (IFAC)
 2. 期日 1985年7月9日～11日
 3. 場所 Brisbane, Australia
 4. トピック
 1. Automated Mining Systems
 Undersea mining/Remote areas/Hazardous environments/Ground control and excavation design/Hard rock and soft rock systems/Monitoring and communication/Case studies
 2. Automated Extraction Systems
 In-situ techniques including gassification/Mineral concentration and extraction systems/Case studies
 3. General
 Remote sensing and image processing/Robotics and the working environment/Simulators for system design and personnel training/Education for automated mining and extraction systems
 5. アブストラクト
 - 1) 語数：300～500 語 (英文)
 - 2) 締切日：1984年4月1日
- * 論文提出希望者は，提出希望の旨を AIMM 宛通知することになっております。所定の用紙がございますので，本会国際課 (03-279-6021) 宛ご連絡下さい。
6. アブストラクトの送付ならびに詳細についてのお問い合わせは直接下記宛にお願い致します。
 The Chief Executive Officer
 The Australasian Institute of Mining and Metallurgy P. O. Box 310
 Carlton South
 Victoria, Australia 3052
 telephone: Area Code (03) 347 3166
 telex: AUSIM AA 33552

CORROSION/84

1. 主催 The National Association of Corrosion Engineers (NACE)
2. 期日 1984年4月2日～6日
3. 場所 New Orleans, Louisiana, U. S. A.
4. 詳細は直接下記宛お問い合わせ下さい。
 The National Association of Corrosion Engineers
 Meeting Department
 P. O. Box 218340
 Houston, Texas 77218
 Tel: (713) 492-0535
 Telex: 792310

ICOSSAR'85
4th International Conference on Structural Safety and Reliability

1. 主催 International Association for Structural Safety and Reliability (IASSAR)
2. 期日 1985年5月27日～29日
3. 場所 神戸
4. アブストラクト
 - 1) 語数: 1000語 (technical session)
300語 (research session)
 - 2) 締切日: 1984年2月15日
5. アブストラクトの送付ならびに詳細についてのお問い合わせは、直接下記宛にお願い致します。
〒606 京都市左京区吉田泉殿町 1-101
(社) 日本材料学会内
ICOSSAR'85 事務局
電話 (075) 761-5325

5th International Conference on Production Engineering (Semi-Centennial Anniversary of The Japan Society of Precision Engineering)

1. 主催: The Japan Society of Precision Engineering
2. 期日: 1984年7月9日～18日
3. 場所: Tokyo, Japan
4. テーマ: Factory Automation and New Machining Technology
5. 内容:
 - A. Paper Session (7月9日～11日)
 1. Cutting Technology for Factory Automation
 2. New Technology in Abrasive Process
 3. New Processing Technology
 4. Machine Tools for Higher Productivity and Accuracy
 5. Surface Integrity and Tribological Problems in Machining
 6. Integrated Manufacturing System
 - B. Symposia (7月9日～11日)
 1. Forecast and Detection of Cutting Tool Failure
 2. Profile Grinding
 3. Hardware Devices for Factory Automation
 4. Engineering Data Base
 - C. Technical Tour A (7月12日)
 - D. Technical Tour B (7月13日～18日)
6. 使用言語: 英語
7. 参加費: Japanese Yen 50,000-
8. 詳細は直接下記宛お問い合わせ下さい。
The Organizing Committee
5th International Conference on Production Engineering

c/o The Japan Society of Precision Engineering
 Ceramics Building
 2-22-17, Hyakunin-cho
 Shinjuku-ku, Tokyo 160
 Japan

XXVIIth International Colloquium on Refractories

1. 主催 The Institute of Ceramics of the Technical University
The Refractories Research Institute
VDEh (Verein Deutscher Eisenhüttenleute)
2. 期日 1984年10月4～5日
3. 場所 Aachen, Germany
4. テーマ Refractories for Steel Making Converters
5. アブストラクト 1984年2月20日締切
6. 論文 1984年7月2日締切
7. 使用言語 独語, 英語, 仏語のいずれでも可 (同時通訳有)
8. 詳細は直接下記宛お問い合わせ下さい。
Institut für Gesteinshüttenkunde
der RWTH Aachen
Mauerstraße 5
D-5100 Aachen
GERMANY

4th International Symposium on Agglomeration

1. 主催 AIME
2. 期日 1985年6月2日～5日
3. 場所 Toronto, Ontario, Canada
4. アブストラクト
 - 1) 語数: 400～500語
 - 2) 締切日: 1984年5月1日
 - 3) Key area
 - ・ Fundamentals
 - ・ Agglomeration Process Technologies
 - ・ Application, Utilization, Case Studies
 - ・ Characterization, Evaluation and Testing
5. 詳細は直接下記宛お問い合わせ下さい。
Prof. J. R. Wynnyckyj
Department of Chemical Engineering
University of Waterloo
Waterloo, Ontario N2L 3G1
Canada

昭和 59 年春季講演大会特別割引航空券のご案内

本会第 107 回（春季）講演大会は昭和 59 年 4 月 1 日（日）～3 日（火）、千葉工業大学（千葉県習志野市津田沼 2-17-1）で開催されますが、大会ご参加の皆様のご便宜に供するため、下記の通り特別割引による航空券の企画を致しましたので、お誘い合せのうえ、多数ご利用下さいますようご案内申し上げます。

1. 航空便と料金

発着地	ご出発便（往路）※略号にてお選び下さい				お帰り便（復路）※略号にてお選び下さい				運賃（片道）	
	略号	3/31(土)	略号	4/01(日)	略号	4/03(火)	略号	4/04(水)	特別料金	普通片道料金
札幌	1A	13:30 頃	2A	08:20 頃	3A	16:00 頃	4A	09:40 頃	18,000円	(25,500円)
	1B	15:00 頃	2B	09:30 頃	3B	18:00 頃	4B	13:40 頃		
	1C	18:30 頃	2C	10:30 頃	3C	20:00 頃	4C	16:00 頃		
小松	1D	16:00 頃	2D	08:20 頃	3D	19:00 頃	4D	10:25 頃	13,000円	(15,600円)
大阪	1E	11:00 頃	2E	07:20 頃	3E	16:00 頃	4E	10:30 頃	12,000円	(15,600円)
	1F	14:30 頃	2F	09:00 頃	3F	18:00 頃	4F	14:00 頃		
	1G	16:00 頃	2G	11:00 頃	3G	19:30 頃	—	—		
岡山	1H	17:40 頃	2H	10:20 頃	3H	15:15 頃	4G	15:15 頃	18,500円	(21,700円)
広島	1I	17:30 頃	2I	09:45 頃	3I	18:25 頃	4H	11:30 頃	19,500円	(23,100円)
福岡	1J	14:40 頃	2J	07:30 頃	3J	16:30 頃	4I	09:30 頃	19,000円	(27,100円)
	1K	16:00 頃	2K	09:30 頃	3K	18:30 頃	4J	13:00 頃		
	1L	18:40 頃	2L	11:40 頃	3L	20:00 頃	4K	15:00 頃		
大分	1M	16:00 頃	2M	16:00 頃	3M	10:30 頃	4L	10:30 頃	23,000円	(27,000円)

2. 申込上の注意

- 上記の設定された出発日、出発時刻の便以外でも原則として、特別料金にて受付致します。皆様方の日程にあわせてご予約致しますので、申込時に具体的にご記入下さい。
〔例〕 4月1日 福岡→東京 18:00 頃希望
- 設定便外の予約をご希望の場合、1か月前の個人予約となり、希望便が確保できないこともありますので、第2希望もご記入下さい。
- 往復ご利用の場合、各区间運賃の2倍になります。
- 表中の出発時刻は昭和 58 年 11 月現在の仮ダイヤに基づいておりますので、多少変更のあることをあらかじめご了承下さい。
- 通信費等諸雑費として申込み1件（複数可）につき 500 円を申し受けます。

3. 申込みならびに支払方法

- 別添申込書に必要事項をご記入のうえ、下記宛お申込み下さい。
- 申込締切後、予約確認証と請求書を書面にて送付いたしますので内容確認のうえ、料金を下記口座宛お振込み願います。領収証は料金振込時の受領証といたしますが、特に必要の場合は申込時にお申出下さい。
- 航空券は入金後、ご出発の 10～14 日前までにご送付いたします。
- 送金先 第一勧業銀行池袋支店 (株)三慶 当座 0116112

4. 申込締切日 昭和 59 年 3 月 15 日 (木)

設定便外をご希望の方は、昭和 59 年 2 月 28 日 (火) までにお申込み下さい。ご希望にそえない場合もあります。

5. 予約の取消 申込み後の予約取消は 1 名片道で下記取消料を負担願います。

航空運賃		13 日前から 4 日前まで	出発の 3 日前以降
10,000 円以上	20,000 円未満	3,000 円	5,000 円
20,000 円以上	30,000 円未満	4,000 円	7,000 円
30,000 円以上		5,000 円	9,000 円

6. 申込先・問合せ先 〒170 東京都豊島区東池袋 1-39-20 慶太ビル
株式会社三慶 担当者/島野・麻生 (電話 03-987-2631)

.....キ リ ト リ 線.....

日本鉄鋼協会春季講演大会航空券申込書

代表申込者 氏 名		電	自 宅	—	—		
		話	勤務先	—	— 内線		
連絡先 (航空券 送付先)	〒						
	フリガナ	年 令	性 別	第 1 希 望		第 2 希 望	
	氏 名			往 路	復 路	往 路	復 路
1		歳	男				
			女				
2		歳	男				
			女				
3		歳	男				
			女				
4		歳	男				
			女				
5		歳	男				
			女				
[通信欄]							

- フリガナは航空券発券の際に必要なので必ずご記入下さい
- 設定便をご利用の方は希望欄に「1 航空便と料金」表中の略号をご記入下さい
- 設定便外をご利用の方は区間希望便名、時間をご記入下さい
- 特記事項は通信欄にご記入願います